

歐米の古文書館(下)

文學博士 三浦 周 行

六 古文書館の利用

古文書館といへば歐米にあつても決して博物館や美術館のやうに萬人向きのする場所ではなく、極めて地味な特殊のものである。夫故俗受けのよかりさうな昔の英雄豪傑等の自筆其他が可なり盛り澤山に陳列された其陳列室の公開にしても、例へばパリの Louvre や Luxembourg が一週の中月曜日を除いた毎日の朝から晩迄觀覽を許して居るに反して Archives Nationales は一般觀覽者の爲めに僅に日曜日の午後一時から四時迄の間公開する外、特別の許可を得たものに限つて木曜日の午前十二時から午後四時迄開かるゝ丈である。グテ

カノの Archivio の如きは、今日に於てこそ諸外國の政府や個人の研究者に利用されて居るものゝ、もとは法王廳の祕中の祕庫であつたのを、千八百八十年法王 Leo XIII. の時に始めて開放されたもので、それすら法王一代限の手心で許された丈であるから、後の法王の代には何時閉鎖されるかも測られぬといふ運命にある。縱し初から公開されたものであつても、直接にこれを利用するものは歴史家、史料蒐集家其他の特殊な少數の人達に限らるべきこと言ふ迄もない。

併し私は古文書館に限らず、何事にも斯様な少數の研究者に迄充分の満足を與へる機關の存在それ自身が、其國の高級文明を立證する一つの表徴

であると考へる。成程直接にこれを利用し得るも

のは少數であらう、けれども其少數者は必ずこれを自己一人の利得とせないので、其收穫を更に多數の人達に分つ爲めに何等かの手段を取るであらう例をワチカノ古文書館に取るならば、一たび此秘庫が研究者の爲めに開放されて以來、法王史の研究編纂に取つて確に一新時期を劃したと謂はれるのみならず、從來世に知られなかつた幾多の史實發見の動機ともなりつゝあることは學界周知の事實である。例へば Ludwing Pastor の法王史がワチカノの秘庫其他の原料から出來たことを熊標榜して居るが如き、苟くも法王史に筆を染むる程のものには直接間接にワチカノの史料に據らねば權威と看做されぬことを雄辯に物語つて居る。それは啻に現代のみではなく、不朽の業は後世に迄も其影響を及ぼして永久不滅の恩澤を残すであらう。此意味に於ても古文書館利用者は決して少數である

といへまい。

併し其性質が性質であるからでもあらう。普通の案内記には、古文書館の記事を載せたものが少く、中には全くこれを闕いで居るものさへある。古文書館自身でも佛蘭西の Archives Nationales や英吉利の British Museum の Department of Manuscripts 杯は陳列品について要領を得易い手頃の解説附の目録があつて、中には優秀なる出品の寫真を挿入して居るものもあるが、他の諸國にはそれを見懸けなかつた。これ畢竟一般の觀覽者に公開さるゝは陳列室丈であつて、其他は相當の手續を経たものに限つて閱覽を許さるゝ爲めに、左迄の必要を認めぬからでもあらうし、又戦後の疲弊から、左様な圖書の編纂出版の餘裕がない爲めでもあらう。

陳列室の設備については、餘り目新らしいもの

は見受けなかつた。大抵は硝子の陳列箱に収めるか、額にして懸けられる。二枚の硝子に挟んだまゝ懸けられて居るのも可なりに多い。硝子の陳列箱は前後に傾斜のあるもの、片面丈のもの、傾斜のないもの取り手であるが、兩面に傾斜のあるものゝ中央に高く兩面に傾斜のある棚を立て添へたものもある。最も簡單なのは厚紙の臺紙に原本を挿んだのを、ピンで留めて陳列したものであらう。硝子箱の上には光線を遮る爲めに巻込自在なカーテンを懸けたのをよく見受けた。

パリの *Musée Carnavalet* には佛蘭西の革命に關する一切の史料が豊富であるが、そこには例へば *Salle Empire* には其半身像畫像遺愛の諸器玩から、今こゝで取扱つて居る自筆の書狀等迄あらゆるものが備つて居つて、時代こそ新しけれ、小正倉院の觀がある。古文書館の陳列室はおのづから其陳列品の範圍が限られて居るので、斯様な陳

列方法を取り難い事情があるから、大抵所藏品の中から代表的の意味に於て、一般觀覽者の感興や好奇心を唆るやうなものを無系統に陳列して居るに過ぎない。併し私がワシントンの *Library of Congress* の *Manuscript Division* の陳列室で觀た

佛蘭西革命時代の自筆文書の如きは *Louis XVI*、*Marie-Antoinette*、*Napoleon*、*Danton*、*Robespierre*、*Marat* 等の知名の人々の筆蹟といふ筆蹟は殆ど網羅し盡くされて居るといつても宜しい位であつたが、其説明書に據ると、*John Bayd Thacher* 氏の蒐集を同夫人から寄託されたものゝ一部であるこの事であつた。其他にも *Marquis de Lafayette* にか *Benjamin Franklin* をか題されて其書狀杯の陳列されて居るものをも見受けた。特に前者は亞米利加の獨立を助けた人丈に佛蘭西から贈られたもので、ラ氏の自筆の書狀から、其家の寫眞、絹に印刷した記念の摺物、此蒐集を寄贈した時の挨拶

狀況が一つ陳列棚に收められて居た。もとより特別の事情からではあるが、Carnegie 其他の博物館の陳列法を偲ばせるもので、私自身の見地からいへば、古文書館に於ても、多少は斯様な陳列法を取り入れて差支ないと思ふ。

古文書館を利用するものゝ爲めには何處にも閲覧室の設がある。私の遍歴した限り、其位置は階上階下各相半ばして居たが、概して利用者の多からぬ爲めであらう、一般の圖書館のそれに比しては手狭であることに於て一致して居た。現に British Museum の如き、又 Library of Congress の如き、同一館内に於て圖書閲覧室と古文書閲覧室とを有するところで双方を較べて見れば、一目瞭然であらう。閲覧室には其一隅に小高く仕切つた出納掛の席があつてよく使用さるゝ辭書、古文書館の文書目録、各縣の古文書館や外國の古文書館の文書

目録杯が周囲の書棚に置かれて閲覧者の使用に任される。大抵ペンの使用を許して居るけれども、ロンドンの Public Record Office ではこれを禁じて鉛筆丈使用させて居る。原本に粗忽があつてはこの注意からであらうと思ふと、ワシントンの Library of Congress では硝子箱に收めて露出しなない陳列室丈にペンの使用を禁じて閲覧室では許して居る。

古文書館は何處でも五十年以内の文書は閲覧を許さぬことにして居るが、パリの Archives Nationales の如きは、普通の閲覧室から幾室かを隔て、奥まつたところに特別閲覧室が設けられて居つて例へば Napoleon の遺言狀杯の貴重な古文書や現に生存して居る貴族の文書杯で一般に見せぬもの其他特許を要する文書杯をそこで閲覧させて居る。其室には又カードと目録と二通り備へ附けられて居るが、何れも普通の閲覧者には示さないで

主管者に一々各自の見たいものを話して取出して貰ふのである。適にこゝに入り得るものゝ数は少いかして椅子は僅か九脚しか置かれて居なかつた。

普通の閲覧室は見渡すところ冊になつたものやさうでなくとも、綴込になつたものが多く出で、居る。私の British Museum の Department of Manuscripts で聞いたところでも、此種の古文書は毎日同じものがよく出でるが、Roll の如きは、二三年に一度出る位のものだとの事であつた。Archives Nationales の閲覧室の隣りがよく出でる文書の假置き場所となつて居ることは前章に説いた。Langlois 館長の話に據ると、同館の古文書を撮影して著書に挿入したものは、好意上、其著書一部を寄贈することになつて居るが、寫眞は必ず二葉丈同館に納めることに規定されて居るとの事であつた。

古文書の撮影手續については聞きもしたが、私がエネチアの國立古文書館を見舞つた最終の日に直接館長の同意を得て、同館に藏する伊藤満所の書状を撮影する爲め、別室へ行つてピントを合せて居ると、館員の一人が闖を排して入つて來て、撮影は二通の願書を提出して許可を受けてから後にしてほしいといふ、何日目に許可が得らるゝかと問ひ返すと、どうしても二日はかゝるとの事に、私の日程は夫迄待てぬから、遺憾乍ら斷念して、館員で其經驗があるといふ一人に影寫を頼んで置いたが、後日私のローマ滞在中に手に入つた事があるから、附加へて置く。

私の見た古文書館の中では、エネチアやベルリンの國立古文書館が僅か三人許りしか閲覧者の居なかつた外は、何處の閲覧室も皆熱心な閲覧者で意外に空席が少い。私が始めてロンドンの Public Record Office の閲覧室に行つた時の事である、

多くの老若の男子の中に立交つて、老嫗や妙齡の女子迄が古ぼけたパーチメントの古文書を熟視し乍ら且つ讀み且つ抄録して居る有様に異様の感に打たれた。其後間もなく、ロンドン大學のスクール・オブ・エコノミックス・エンド・ポリチカル・サイエンスの講師 Power 女史の邸の茶に請せられて、同席の女史の僚友共と四方山の話の序に、此感想を持出して、彼女等は皆大學の大學生であらうか、それにしては、餘りに年のふけて見える人も交つて居たがどうと、女史等は異口同音に、勿論女學生もあらう、けれども、單に自己の趣味の爲めにする人も少くはなからうと告げられたには恐縮した。歐米諸國は歴史的に大なれ小なれ關係を有たぬものはなく、自國の史料丈では到底充分の研究が望まれぬから、各國政府は各自國史の研究編纂について、諸外國の古文書館に人を派遣して自國に關する史料の採訪に従事させて居るも

のが多く、個人としても亦それらに就いて研究材料を涉獵するものがある。亞米利加の如きも、例へば彼 Carnegie Institution は毎年多額の經費を投じて歐米諸國の古文書館に於ける關係古文書を採集し、其目錄を出版して居ることは既に説いた。尤も Institution にはまた圖書館や古文書館の設備がないので、是等の史料は皆これを Library of Congress に寄託して居るとは其歴史研究部長 Jackson 氏の直話である。ロンドンの Public Record Office の Jenkinson 氏もアメリカの學者が多く同館を利用して居ると語られた。今それについて、私自身の見聞を附加へるならば、パリの Archives Nationales を訪うた時、私は其閱覽室で、一人の老婦人を見、又その特別閱覽室で、主管者から、カードや目錄の取り方について説明を聴取して居る中にも、年若き一人の女子が、つと此部屋に入るなり、閱覽席につくのを見たが、後で聞けば前

者は國籍は波蘭であるけれども、加奈陀政府から派遣され、後者は又瑞典政府から派遣されて、共に各國史の史料を調査して居るとの事であつた。

ポネチアの Archivio Di Stato を見學する前に私は同地の Thomas Cook and Son の支社を訪うて、英語の話せる同社附のガイドを求めると、居合した數人の者共、アルキ非オの名を聞いては互に顔見合すばかりで誰一人應ずるものがない。何處も同じ事で、彼等ガイドの領分と定つて居る月竝の名所舊蹟の中には、勿論古文書館杯のあらう筈はないが、甚しいのになると、其所在すら知らぬものもあつて、私から始めて聞いても 相變らず行かうといはぬ。私は君達から古文書の説明を求める譯でなく、只通譯をして貰へば結構だからといふと、漸く呑込顔の一人が進み出で、私のブライゼード、ガイドとして同行を承諾して呉れたから早速汽船に同乗して出掛けた。 Direzione Del R. Ar-

chivio Di Stato の標札を見て、戸を排して中に入ると、そこには廣場がある。階上の Direzione の部屋を通り抜けて突當りの閲覧室に通ると、幸ひ館長 Orlandini 氏が居られて、快く調査上の便宜を與へて呉れられたが、ガイド風情の悲しさ、少し専門の話になると、通譯が出来兼ねるのを見兼ねた閲覧者中の學生らしい一人の青年が、流暢な英語で、私の爲めに親切に通譯して呉れたから、私は大に助かつたが、お蔭でガイドは頗る手持不沙汰であつた。それから館員の案内で書庫の見學に出掛けると、其入口でガイドの入庫を拒まうとするから、私は通譯の爲めに特に同行を頼んで漸く許された。見學終つての歸途、我 Giovanni ガイドの名は私の今日の調査が彼れ自身に負ふところの多つたことを誇り顔に語つて、同地見物の同胞から貰ひためた數葉の名刺を見せ乍ら、私のをも所望したから、私は君も今日君達の滅多に見

られぬところが見られて、將來案内箇所の一つも殖えたのは全く私のお蔭でないかと言ひかへして互に笑つて別れたが翌日からは、ガイド拔で出掛けて、彼青年の通譯を煩すことゝした。

青年は名を Samois 君といひ、希臘コーフ島——其後希臘膺懲の爲め伊太利海軍の一時占領に依つて有名になつた——の古文書館 (Archives de Corfou) の館員であるが同古文書館長 Theodorakis 氏

に隨行してこゝに來て居るといつてテ氏にも紹介して呉れた。話して見ると、テ氏はアテネ大學の歴史の教授をも兼ねて居る老學者であるが、政府の命を受けて、希臘の文明に特殊の地位を占めて居るクレータ島史關係の古文書を調査する爲め、三年前からこゝに滞在して古文書館の古文書を涉獵して居り、青年は翁の助手として其仕事を手傳つて居るのである。此調査は今後何年の後に完成するか分らぬさうで、テ氏は其家族と共にエネチ

アで暮らして居るとの事であつた。後日青年を私の旅館に請じて晚餐を共にし乍ら斯る説話に耳を傾けつゝも、私は歐洲諸國の政府が其國史の爲めに、外國に存在する史料の蒐集にかばかり熱中して居る事實と、此方面の仕事の全く閑却されて居る我國の現状とを思ひ較べて内心慳怍たるの外なかつた。

敢て古文書館員に限つた譯ではないが、こゝでも閱覽者に接觸する館員の親切な態度は、言ひ知れぬ好印象を私に與へて呉れた。閱覽室の出入掛の席に就くものは我國ならば下條に限られて居やうが、ロンドンの Public Record Office ではロンドン大學やケンブリッヂ大學の講壇にも立つて、おしもおされもせぬ古文書學者の Jenkinson 氏がみづから其席に就いて居て、閱覽者からの質問には小聲で而かも丁寧な答へて呉れる。エネチアの

國立古文書館では、これも私が前記の Samolys 君から聞いた事であるが、館長が三人もあつて、私の面會した Giovanni Orlandini 氏は羅馬陸軍等の著者として有名な人であるのに、自身出納の席に出で、閱覽者と應對する様子は全く親友の様に見えるて床しかつた。それも其筈、古文書館の閱覽者は、圖書館以上に、少數の特殊な教養ある利用者に限られるからで、別して三年も通ひ詰めて居る Thokolis 氏一行が殆ど閱覽人の全部といつてもよい程の同館の如きは猶更の事であらう。

British Museum では、毎日正午から午後にかけて、館員が一定の題目の下に陳列品に就いての講話をする例で、觀覽人は誰でも隨意に立ち留つて聴くことが出来る。もとより平易通俗な説明ではあるが、陳列品についての主要な概念や或程度 of 知識を與へて觀覽の目的を多少徹底させる効果があるに相違ない。傍聽人は時に依つて多くも少

くも一定せぬけれども、平均十四五人であらう。講演者はこれに對して他の觀覽人の妨とならぬやう物靜かに陳列品を指し乍ら話を進めて行くと、老若男女の傍聽者は又時々實物をのぞき込んで、合點が行くと、讚歎の聲を洩らしたり、さうく杯と合槌も打てば、講演者と共に笑ひ興じもするし、話が濟むと、講演者に對して、口々に難有うといつて退散する様うるはしく、確かに有效な社會教育の一つと見受けたが、中にも寫本部の寫本や古文書については、歴史のもの、冒頭の飾り文字のもの杯については、兎角乾燥に陥り易い説明を相當興味を有たせて聞かせて居るのを、私も屢立聞きして感に入つたのである。同館の寫本部では、取次の小使が、其入口に懸けられたマグナ・カルタ其他ロンドンの大火の燒殘りの古文書杯のカーテンをあげて見せては觀覽人に説明をして居る。私も Clason 部長への取次を頼んで暫く待合せて居

る間に、一度其極り文句の説明を聞かされ、殊に Public Record Office にもないものがこゝにあるとの マグナ・カルタについての自慢の口上に京都の寺院によくある小僧のそれを思ひ出したことがあるが、決してわるい氣持はせなかつた。尤も British Museum では、時々觀覽人の質問に對して監視が陳列品の説明をして居るのを見受けた。パリの Archives Nationales でも陳列品についての一と通りの説明は監視に出来るやうであつた。

British Museum について、今一つ附加へたいのは、利用者に對する設備の整つて居る事である。各部の部長から部員に至る迄、何れも一塵の學者として學界に認められて居り、中には權威ある著書のある人も多いから、利用者の質疑等に對しても充分に満足を與へることが出来るのである。既に説いた如く、私がロンドンに滞在中欧洲の古文

書の種類を一通り取揃へやうとした時、其材料としての パーチメント や各種新古の料紙は集め得たものゝ、最古の パピルス 又は容易に手に入らぬ。品がないのではない、價が高くて手が出だせぬのである。其中に散歩の途中で、ふと或る骨董店の店頭をのぞいて見ると、偶然にも、パピルスに古風の人物や器物を描いた額が出て居つて、裏紙には Fragment of Egyptian Papyrus of Pt-Ta-Heru-Dr-Aa (XXVIII Dynasty) との説明が刷込まれて居る外に Horus の神から授り物の圖で最優秀品だとか、Heron Price の蒐集品の中だとか、此断片を含んだ同氏の蒐集品目録は大英博物館にあるとかいふ意味の小さい張紙が三枚も附いて居る。それらは餘り當てにならぬとしても、材料のバピルスであること又は間違ないらしい。只其繪は素人眼にも、所々繪取つた痕跡が見えるので、あやしいと思へばあやしまれる節もないではない

が、何分にも言値が頗る廉であるから、案外掘出しものかも知れぬ。それから後私は British Museum へ行く度毎に、其埃及部に立寄つて、それと類似の列品を特に注意して見た結果、材料の見極め丈ついたので買取つたものゝ、其時代については思案に餘つて、先づ東洋の美術通として知られた博物館の美術部長 Binyon 氏を訪うて其意見を質した。すると、氏は自身よりも埃及部の Hall 氏の鑑定を乞はれた方がよからうといつて、同氏に紹介されたから、私は轉じてホ氏の室を訪づれた。年まだ壯くて快活な氏は件のパピルスを手にとるなり、どつくりと見詰めて、扱語らるゝやう、此パピルスは原本に相違なく、張紙の記録も全然事實であらう。只年代に至つては印刷の説明が事實としても、紀元前三百年であつて、埃及の物としては寧ろ後世に屬するが、自分の觀たところでは、此デパートは餘り早過ぎるやうで、それよ

りもずつと遅く、紀元後二百年許の羅馬時代の風が見える。畫面は上部右端を除くの外は近世になつてから、全體に繪取られたもので、取分け薄桃色の如きは、埃及時代には全くない後世のものである。要するに、埃及製作品としても餘り出來のよい方ではないと斷せられた。此鑑定は私にも、最も肯綮に中つて居ると思はれて、深く同氏に敬服したのである。私の割合安く手に入れたものが、繪畫は兎も角、古代の文書に使用さるゝパピルスの原本であることについて權威ある埃及學者の證明を得たのは私に取つての幸福であつた。

それにつけても私は British Museum の陳列品を中心として館長以下小使に至る迄の學界と社會とに對する不斷の寄與貢獻の頗る偉大なることに想到せざるを得ない。同館の閉館時間は午後五時と限られて居るにも拘らず、實際は日没後迄も此規則は餘り勵行されて居ないらしい。私は電燈の

光の煌々たる中を、入口の石段を拾うて館内に消えて行く觀覽人の後姿を眺めては人類文化の向上に向つての貴い犠牲に對して、涙ぐましい感激に満たされ乍ら振り返り／＼歸途に就いたことも一度や二度でなかつた。

是等の古文書館には多少共日本史關係の史料も保存されて居つて、私が日本人なるが爲めに、館員の好意上から特に取出して見せられたものもあれば、又私から註文したものもないではなかつたが、もとより是等の史料探訪が目的でもなく、又既に發表されたもの以外に新發見があつた譯でもないから、こゝにはこれらの詳しい記述を省略することゝするが、只本編の終を結ぶ爲めに、二三の知見を書留めて置かう。

私の歴巡した古文書館の中で、最も多く日本に關する史料を傳へて居るものは、何んどいつても

ハーグの *Rijks-Archief* であつた。そこには和蘭の海外殖民大發展時代の古文書を殖民記録局で蒐集したものが全部保存されて居る。十七世紀の初頭に和蘭の東印度會社が創立されて後程なく、我國との間にも通商が開かれてから、平戸時代、長崎時代と長い歴史を辿つて來た丈に史料の豊富なのも當然である。千六百二年會社創立の際の株主の拂込に關する文書や我國との通商が許された慶長十四年の秀忠將軍の朱印等を始めとして日蘭の文書の多數が保存されて居り、架上見渡すところ五段で約二十五メートル位はあらう。蘭文で古いのは千六百二十年のもので、日本紙に書かれて居る。蝕蝕のあるのは日本からの持越か。中には平戸時代に松浦家から贈られた金蒔繪の美事な箱杯の器物もある。縁を黒塗の螺鈿にした菱形の大きい掲示板に、千六百十年から千八百三年迄の商館長の名と毎年入港の隻數とを示したものはもと出

島の和蘭商館備附のもので、又出島の古圖の掛軸も日本の將來品に相違ない。大阪城の油畫は昨年本誌の口繪として發表した。其他今は我領土となつた臺灣も一時和蘭の占領に歸して居た爲め當時の史料も亦少からず保存されて居る。

是等は何れも我近世の貿易史料として貴重であるばかりでなく、政治・經濟・外交・宗教其他一般文化の上に關係するところが可なり廣いのである。是迄とても日本史に興味を有つた外國人には夙にハーグの古文書館の日本關係史料に着目も利用もした人があつて、中にも Mikado's Empire の著者 Giff's 氏は是等の夥しい史料が徒らに架上に横つて居るのを見て、日本政府は其謄寫を命ずる義務があるといはれたさうである。Pils 先生の如きも、嘗て是等の史料を涉獵して其研究に利用され、又其一部の謄寫は先生の熱心なる斡旋に依つて東京帝國大學に取寄られたが、先年の震災

に大學圖書館と運命を共にした。村上博士も其留學中に精しく調査された筈である。私が同館を見學した時に案内された副館長 Dr. Emlin 氏は私に向つて、是等の史料を最も熱心に長くかつて調査したものは、自身の知つて居るところでは Osker Nachod 氏を随一とすると語られた。ナ氏の Die

Beziehungen der Niederländischen Ostindischen

Kompagnie zu Japan im siebzehnten Jahrhundert.

の勞作が、此古文書館の史料に負ふところ多きは言ふ迄もなからう。先年日蘭協會に於ては、數千圓を投じて、是等の古文書目錄を取つたが經費のない爲めに出版されずに居ると聞いて居る。從來是等の古文書の一部の謄寫は試みられたこともあるが、未だ全部の副本を作製するに至らぬ。然るに私がハーグに參る少し前に同地に赴かれた白鳥博士は、岩崎家の東洋文庫の爲めに全部謄寫の交渉の任に當られ、略古文書館の諒解を得られたと

の事であるが、只千八百三十年以後現代迄のものは和蘭の殖民政策に關する顧慮から、殖民大臣の許可を要する爲め未定であるやに聞いた。何れにもせよ、國史の研究上最も重要で、而かも巨額の經費を要する外國存在の史料の謄寫が、富豪の出资に依つて實行の緒に就くのは、喜ばしい事であつて、私は同文庫がこれを第一着手として漸次他の諸外國の同種の史料に及ぶこと恰も彼亞米利加之 Carnegie Institution の如くならんことを切に望むものである。

さり乍ら和蘭の貿易時代以前の天主教傳播時代の史料は、エネチアやローマ、ワテカノ杯の古文書館に保存されて居ること言ふ迄もない。別けても、エネチアの Archivio Di Stato には千五百八十五年の六月に同地を見舞つた大友有馬大村三氏の使節中大友氏の代表者であつて伊藤鍾滿所 (Ito Don

Mancio) が歸朝の途次リスボンとゴアからドーゼに宛て、其滞在中ドーゼ及び市民からの優待を謝し、ドーゼと市民との幸福を祈つた謝狀を傳へて居るが、それを見ると、本文の伊太利文と其署名とは墨色を異にして居るから署名は其自署に相違ない。同館には別に三氏の使節を接待した時の儀式を書いた Ceremoniali があるけれども、もとより坊間に入手に入れ得べきものでないから、私は同地の書肆で求めた千六百六十三年エネチア發行の Sansovino 氏著 Venezia Città Nobilissima et Singolare を以て満足せざるを得なかつた。同書には四百五十七頁以下に日本使節の入市後の接待についての記事が記されて居る。

三氏の使節がエネチア出發の前日 Chiesa della Carità の慈善學校を訪問して感激の餘り、本國に於ても同様の學校を設立することを誓約した爲め、其記念として是等の事を大理石に刻んだものが、

同寺の廢寺となつた後、今は Santa Maria Della Salute 寺の學校の廊下の壁に他の石板と共に塗りこめられて居る。私は同寺を訪うて此石板を見せて貰ひ、猶ほ學校からは San Marco の印刷の案内記一部の惠贈に預つたが、其九十一頁に石板の全文と説明とが載つて居る。

斯様に使節の自筆を始めとして、其他の記録を見、又其遺蹟に遊ぶと、身は三四十年前の夢を辿るやうな心地がしたが、只使節一行がドーゼから受けた滞在中の歡待に對して記念の爲めに書き残した七月二日附の日本文及び伊太利文の謝狀は一時行方不明となつて居つた。明治六年に岩倉大使一行がエネチアを訪はれた際に日本文の書を古文書館で見られて珍らしさの餘り、同市の接待委員の一人であつた Buzola 氏に其調査を依頼された。それが動機となつて、ベ氏はエネチアを始めとしてフィレンツェ・マントワ・モデナ・ゼネワ等

各地の古文書館、圖書館、學校等に保存さるゝ大友外二氏及び伊達政宗の使節に關した史料を採訪された末、數年の後に(千八百七十七年、即ち明治十年) Le Antiche Ambasciate Giapponesi In Italia を著してそれらの史料をも收めた。前記謝狀の伊太利譯文は其史料集の二十八に載つて居るけれども、ベ氏はエネチア國立古文書館に藏する前記 Ceremoniali より引用されて居るから、其當時此原本が同館に現存して居たかどうかは確かでないが、無論同館にあるべき性質のものであること言ふ迄もあるまい。

然るに此文書は後に同館から出で、ローマの Propaganda Fide の博物館に陳列されて居つたのを、明治二十一年に渡邊昇氏が見られ、同二十六年一月發行の雜誌『史論』第二號に其不完全な見取寫が掲載されてから始めて此文書の存在が世に知れ渡つた。尤も其以前同二十三年十月發行の日本

亞細亞協會雜誌第十八卷第二號に *SHOW* 氏が原本の寫眞を發表して居たけれども、日本人の注意を惹かなかつたのである。明治三十二年にローマに居られた坪井博士が偶同地留學中の村上博士と前記 *Propaganda Fide* を訪はれて同校附屬の博物館及び圖書館を物色されたが、此文書の見附からなかつたので、更に其附屬の古文書館を捜されやうとして館長の拒絶に遭はれ、法王廳に願出でられて漸く古文書館搜索を許されたものゝ、遂に得るところのなかつたことは、史學雜誌第十一編第十二號の同博士の「大友大村有馬三家使節ぬちあ政府へ呈せし感謝狀」と同誌第十四編第四號村上博士の「大友有馬大村三侯の西伊遣使に關する新史料」に見えて居る。私はワチカノで圖書館の陳列室を參觀すると、丁度我使節が *SHOW* の即位後の晴れの行列に加つて居る壁畫の下の陳列箱に、慶長十八年九月四日の伊達政宗の書狀と其袋

とに接して、大友氏等使節一行の問題の謝狀の原本が陳列されて居るのを見た。其伊太利譯は私が携へて行つた *Fabre* 氏のそれと全く同文であり日本文の字句は暗記せなかつたが、意味に於て變りはない、熟く視ると、其原本には楕圓形の藏書印に *SAG. CONG. DE PROP. FIDE* の印文があるが、賈ふ方ない *Propaganda Fide* の舊藏である。何時これが圖書館に歸したかを館員に質して見たが、皆目分らぬとの事であつた。有るべきところになくとも、ありさへすれば喜ばしい。猶ほこの壁畫の中には右の行列の外、櫛架上の若い一人の同胞の殉教者も見懸けた。

政宗の使節支倉六右衛門の名は常長といはれて居るが、*エネチア* 國立古文書館所藏の彼れの書狀には

へひりつへば

支倉六右衛門

長經(花押)

又は

はせくら六衛門

さんひりへば

長經(花押)

と自署して居る。さんひりへば(又はへひりつへ

ば)は Don Filippo であること勿論であるが、長經

の名乗は常長の顛倒としても文字に相違がある。

大友氏の使節は日向王の姪とあるから、伊東祐兵

の姪で大友宗麟の再從姪に當る伊東義賢に擬せら

れて居るが、何れにしても伊東氏に相違なく、

Mancio (Mancio も)も萬千代杯であらうと思はる

べけれども、其書狀には伊藤鈍滿所と書かれて居

る。總別日本人は自他共に人名を書くに無頓着で

あるから、これも其一例として見るべきではあら

うが、猶ほ多少の研究の餘地はあらう。

降つて新しいところでは、ベルリンの Staats

Archiv で私の見た萬延元年の日本と普魯士との

通商條約と文久三年の將軍家茂の書翰杯が注意に

上つた。條約は美麗な表紙を附け、緋縮緬に包み、

桐の箱に入れて大きな絹紐を懸けたもの、書翰は

老中水野和泉守(忠精)板倉周防守(勝靜)井上河内

守(正直)有馬遠江守(道純)の連判があつて、其奥

に家茂將軍の經文偉武の印文のある大きな朱印が

捺されて居る。萬延元年の條約三綴一通と批准條

約交換證書三通とは何れも東京帝國大學附屬圖書

館にあつて焼失したから、原本として残つて居る

ものは、今は只こゝに保存さるゝものばかりとな

つた。

併し是等の古文書館を通じて、日本文の文書に

對しては其讀方を辨へぬ爲め、ハイグでは逆さま

に懸けられて居るのを見て館員に注意した。保存

の方法についても、ベルリンでは條約文を容れた

立派な箱の紐の結び方を知らずに無雜作に箱に巻き附けられて居た。ワチカノ圖書館を訪うた時の事である、館員は同館に藏する慶應四年の佐賀縣及び滋賀縣の切支丹宗門の制札を私に示して、一つは日本政府が基督教を制禁した時のもので、一つは解禁した時のものとなつて居るが事實かと質した。見ると、何れも太政官の達に基いたもので「切支丹宗門之儀、是迄御制禁之通堅可相守事」とある禁制の揭示であるから、其通り答へると、館員は意外の面持であつた。同館には猶ほどうして手に入れたものか、嘉曆二五月初三日附の備後三郎高德の漢文の教訓めいた偽文書を藏して居る